

# 費用対効果分析実施判定票

## 費用対効果分析実施判定票

別添様式

年度： 平成27年度

事業名： 木津川水系直轄砂防事業

担当課： 河川計画課

担当課長名： 奥野真章

※各事業において、以下の(ア)及び(イ)の全ての項目に該当する場合には、費用対効果分析を実施しないことができる。

| 項 目                                                                                                                                         | 判 定                                                       |       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|-------|
|                                                                                                                                             | 判断根拠                                                      | チェック欄 |
| <b>(ア)費用対効果分析の要因に変化が見られない場合</b>                                                                                                             |                                                           |       |
| <b>事業目的</b>                                                                                                                                 |                                                           |       |
| ・事業目的に変更がない                                                                                                                                 | 事業目的に変更がない                                                | ■     |
| <b>外的要因</b>                                                                                                                                 |                                                           |       |
| ・事業を巡る社会経済情勢の変化がない<br>判断根拠例[地元情勢等の変化がない]                                                                                                    | ・地元情勢等の変化がない<br>・周辺に新たに事業化した区間がない                         | ■     |
| <b>内的要因&lt;費用便益分析関係&gt;</b>                                                                                                                 |                                                           |       |
| ※ただし、有識者等の意見に基づいて、感度分析の変動幅が別に設定されている場合には、その値を使用することができる。<br>注)なお、上記2.~4.について、各項目が目安の範囲内であっても、複数の要因の変化によって、基準値を下回ることが想定される場合には、費用対効果分析を実施する。 |                                                           |       |
| 1. 費用便益分析マニュアルの変更がない<br>判断根拠例[B/Cの算定方法に変更がない]                                                                                               | B/Cの算定方法に変更がない                                            | ■     |
| 2. 需要量等の変更がない<br>判断根拠例[需要量等の減少が10%*以内]                                                                                                      | ・需要量等の減少が10%以内                                            | ■     |
| 3. 事業費の変化<br>判断根拠例[事業費の増加が10%*以内]                                                                                                           | ・事業費の増加が10%以内                                             | □     |
| 4. 事業展開の変化<br>判断根拠例[事業期間の延長が10%*以内]                                                                                                         | ・事業期間の延長が10%以内                                            | □     |
| <b>(イ)費用対効果分析を実施することが効率的でない判断できる場合</b>                                                                                                      |                                                           |       |
| ・事業規模に比して費用対効果分析に要する費用が大きい<br>判断根拠例[直近3カ年の事業費の平均に対する分析費用1%以上]<br>または、前回評価時の感度分析における下位ケース値が基準値を上回っている。                                       | ・直近3カ年の事業費の平均に対する分析費用割合：7.8%<br>・前回評価時の感度分析における下位ケース値：4.7 | ■     |
| 前回評価で費用対効果分析を実施している                                                                                                                         | 平成25年度に実施(B/C 5.1)                                        | ■     |
| 以上より、費用対効果分析を実施するものとする。                                                                                                                     |                                                           |       |